



Japanische Internationale
Schule München e.V.
Bleyerstr.4 D-81371 München

不易流行

校長 山下 理恵

不易流行・・・(芭蕉の俳諧用語) 不易は詩の基本である永遠性。流行はその時々の新風の体。共に風雅の誠からでるものであるから、根元においては一つであるという。(広辞苑)

校門に咲き誇る桜に見守られながら、平成22年度がスタートしました。

新年度を迎えての始業式・入学式は、学校にとってまさに「不易」といえる行事です。毎年のように学校の歴史を積み重ねるこの日ほど、明るく希望に満ち溢れた日はありません。学校には春休みを終えた子供たちが集い、笑顔・ざわめき・緊張が交錯します。私たち教師にとってもこの日は「不易」、子供たちとの新しい出会いの時を迎えます。

そして、新年度の教育計画がスタートします。この内容は、学校における「不易」「流行」が織り交ぜられたものだといえます。毎年変わらない活動もあれば、新しい活動もあります。それは、よりよい教育活動を目指す「不易流行」として私は考えます。

さて松尾芭蕉は、俳句という短い詩形においては不変の条件(十七音形・季語などを踏まえた上)で、絶えず新しい句材を求め、新しい表現をしなければならぬと説いたといわれています。不変の鉄則を踏まえた上で、絶えず新しさを追求した精神は、学校教育の場でも常に求められるところでもあります。

そこで、本校では伝統ある教育目標

主体的に社会の変化に対応できる能力を持った心身ともに調和のとれた児童生徒の育成

自ら学ぶ向上心の育成(知育)

豊かな心の育成(徳育)

たくましいからだの育成(体育)

の具現化を目指します。

また今年度は、重点目標を

豊かな心の育成(徳育)

に定め、目指す児童・生徒像に

次のキーワードを加えました。

伝える(言葉)・感じる(心)

はたらく(力)

日々の学校生活からたくさん
の事を感じ、考え、伝えようと
する子、自分のことだけでなく
周りの人のためにもはたらくこ
と

ができる子であって欲しいと考
えています

かしこい子・・・伝える(言葉)

- ・自ら学び、進んで行動できる子

- ・異なる文化や社会を理解し、

- 学習したことを様々な場面で活用できる子

やさしい子・・・感じる(心)

- ・思いやりを持ち、互いの考えの違いを認め

- 協力して頑張ろうとする子

たくましい子・・・はたらく(力)

- ・健康な体と強い意志を持ち、最後まで

- 粘り強くやり抜こうとする子

今年度も教職員一同、子供たちのために精一杯努めさせていただきます。どうぞ保護者の皆様をはじめ関係諸機関の皆様方のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

児童生徒数

2010年4月9日現在

	小学部							中学部				総計
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	1年	2年	3年	合計	
男	9	11	9	6	8	3	46	9	6	1	16	62
女	6	8	5	5	13	11	48	2	9	2	13	61
計	15	19	14	11	21	14	94	11	15	3	29	123